

今回は冬休みの「家庭読書の日」の感想を紹介します！

南郷小学校 令和7年1月

毎月23日は「いしかわ学校読書の日」加賀市の「市民の読書の日」です。それに合わせた「家庭読書の日」の取り組みにご協力いただきありがとうございます。

1年

児童

読んだ本「よるくま クリスマスのまえのよる」
よるくまが、ひこうきをそうじゅうできてすごかったです。

児童

読んだ本「めがねをかけたら」
めがねをかけたところがおもしろかった。

保護者

読んだ本「おたすけこびと」
工事車両の表紙なので、工事現場でどんな働きをするのかと思ったら、まさかのケーキ作りの本でした。カラフルな小人たちが、それぞれの車両に乗って作業したり、全く違う事をしていたりと、何人いるか分からない程の数でとても楽しそうに完成させていました。弟も工事車両が好きなので、指をさし一緒に見ていました。

2年

児童

読んだ本「マリー・アントワネット」
マリー・アントワネットが、オーストリアからフランスに行って、フランスおうひになったのがすごいと思いました。

児童

読んだ本「ぼくがきょうりゅうだったとき」
にんげんのせかいから、こうえんのトンネルをとおりときょうりゅうになったり、きょうりゅうのこどもたちが、きぐるみをきたともだちだったり、そんなたのしいゆめをみれたらいいなあ。

児童

読んだ本「あいさつ団長」
あいさつをするときは、こころがこもっていないとあいてにつたわらないということがわかりました。

保護者

読んだ本「やっぱり じゃない」
見た目だけではピザ・・・じゃなくて中身はかぼちゃ！にんげんは見た目でおもいこんでしまうことがあるけれど、なんでも中身を見てないと分からないものですね。深い話。

3年

児童

読んだ本「すうがくでせかいをみるの」
主人公の家ぞくはみんな好きなことがあって、主人公は自分の好きなことをクラブかつどうでさがしたけど、どれもしっぱいだらけでおもしろかったです。人それぞれ好きなことがあっていいなと思いました。

児童

読んだ本「ぐりとぐら」
ぐりとぐらが大きなたなごを見つけてカステラを作っていたら、鼻をうごかしながら森のどうぶつたちが来て、みんながなかよくカステラをたべているのがおいしそうでした。

4年

児童

読んだ本「ぼくネコになる」
ネコになると、良いこともあれば悪いこともあると分かりました。ぼくだったらひっかかれたくないので、ネコになりたくないと思いました。

5年

児童

読んだ本「おしばいっかのおひっこし」
虫歯になるとどうなるかよくわかるので、歯の管理をしっかりしなくちゃいけないなと思いました。

児童

読んだ本「だじゃれ日本一周」
言葉もおもしろいけど、絵もおもしろかったです。その場所の有名なものとかが出てきたので、その場所についても知れたので良かったです。

6年

児童

読んだ本「グレッグのダメ日記 なんとかやっっていくよ」
グレッグの心情を描いたこの日記を読むと、いやなことともいつのまにか忘れて、楽しんで読めました。

児童

読んだ本「ミカちゃんのひだりて」
周りとは少し違って、自分の個性を大事にしたいなと思いました。

児童

読んだ本「5万年後に意外な結末」
「白雪姫症候群」や「ピーターパン症候群」など知っている物語の症状がおもしろかった。一つのものに2分くらいしかかからないからすぐ読めた。

児童

読んだ本「わけあって絶滅しました」
絶滅にはいろいろなわけがあって、人間もそのわけの一つになっているから、生き物をもっと大切にしようと思ったし、そうじゃなくても、環境の変化なんかで絶滅してしまったりするから、生き残ることはむずかしいことなのだと分かりました。

児童

読んだ本「十年屋」
大切なものにこめられた思いは、手放したくないという気持ちに変わる。そんな大切なものを、「十年屋」魔法のお店に預かってもらえるなんて、とてもすてきなことだと思いました。